

## 平和を守りつなぐために私たちにできること

能生中学校 2年2組 池田 希愛

私は、戦争については、メディアや教科書でしか学んだことがなく、戦争は悲惨なもので絶対にしてはいけないものという漠然とした知識しかありませんでした。そこで、実際に目で見て学び、知識を深めていきたいと思い、今回の広島派遣研修に参加しました。

8月6日に開催された平和記念式典には、各国から大勢の人々が参列していて、核兵器廃絶と世界平和を願う気持ちの大きさを感じ取ることができました。また、互いを認め受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解していくことが大切であると知りました。

原爆投下から77年経った今でも、原爆による後遺症で多くの方が苦しんでいます。体だけでなく、心にも苦しみは響いています。世界で唯一の被爆国である日本が中心となり、核兵器の恐ろしさや影響を世界へ向け発信していかなければならないと強く思いました。

私は今、とても幸せです。毎日学校へ通い、たくさんの仲間と楽しく過ごしています。家には家族がいて、食事や入浴など何不自由なく生活しています。この生活が当たり前だと思っていました。でも、私たちの日々の当たり前は当たり前ではないのです。77年前、一発の爆弾により一瞬でこのあたりの生

---

活は奪われたのです。生活だけでなく、何の罪もない人々の命も奪われました。今の平和は戦争で犠牲になったたくさんの命の上に築かれているということを忘れてはなりません。今の暮らしがあるのは先代の方々のおかげであり、今を生きる私たちには、その平和を守る義務があります。そして守り、伝え、引き継いでいかなければなりません。

「平和について考え、発信してください。」と被爆体験者の方はおっしゃっています。世界全体が平和を得られるように、今の自分にできることを考えてください。私たち個人ができることは、とても小さなことかもしれませんが。しかし、1人1人の行動の積み重ねが大きな力になり、やがて大きな実を結ぶのだと思います。まずは関心を持ち、知ることから始めてみませんか？ 今年、被爆体験者数は初めて12万人を下回り、平均年齢は84歳を超えました。近い将来、被爆体験者の方々のお話を直接聞くことはできなくなってしまいます。その前にまずは広島へ行き、自分の目で見て聴いて、広島のことや原爆について学んでほしいと思います。そして、自分が学んだことを周りの人たちに伝えていくことが、世界平和への実現の第一歩ではないかと私は思います。

---